

温古知新②⑦ 南総里見八犬伝 8 1

笑顔礼讃西東

好日市川句会様 (東京都・江戸川区) 2 3

新堀鉄朗様 (東京都・北区) 4

投稿作品 5 9

心に残った作品 9 10

詠み人スクランブル(春を感じる句いといえど何ですか?) 11 13

新潟ぶらり / 平出修の故郷 2 13

お客様の「リレーエッセイ」 水野喜子様 14

ニュースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」 歌人樋口智子様 16

4

April
Vol.73

*
「喜怒哀楽」は、
文芸を楽しむ方々の
活力の源を目指し
(株)ミューズ・コーポレーション
喜怒哀楽書房が
隔月発行している
情報誌です。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン
詩歌俳柳壇ニュース

友楽

温古知新②⑦

「南総里見八犬伝」8

ついに集結した七犬士。彼らが結城へ向かう一方、里見家では……。

里見義実は隠居し、伏姫の弟・里見義成が当主となっていました。

上総国館山城主・蓼田素藤は、妖力を持つ尼・妙椿の助けで義成の嫡男・義通を誘拐、里見に反逆。義成は大軍を送りますが、嫡男が人質にとられているためどうにもできません。そんな折、伏姫の祠を訪れた隠居の義実は蓼田の息のかかった者に襲われ、一人の少年に助けられます。その少年は、大江親兵衛でした。親兵衛は館山城に使者として赴き、素藤を取り押さえて義通を救い出します。一度命を許された素藤ですが、妙椿尼の妖力により再び館山城を奪還。しかし、これも親兵衛によって鎮圧されます。

その頃、結城の古戦場に庵を結んだ、大法師のもとに、穂北から七犬士が訪れ法要が盛大に行われました。これに招かれなかった悪僧・徳用は、結城家の奸臣らと謀ってこの法要を襲いますが、安房からかけつけた親兵衛に助けられます。ここに八人の犬士が集結、大法師は伏

姫の死後初めて安房に戻り、八犬士は里見家に仕えることになりました。

その後、將軍家への使者として親兵衛が選ばれ京都へ向かうことに。一行は海路で西をめざしますが、途中、三河国奇子で、海賊の罠にはまっています。親兵衛自身も賊の頭領と水中で争いましたが苦戦。あわやというところで、姥雪代四郎に救われたのでした。

京での使命を果たした親兵衛一行。しかし、管領・細河政元に気に入られ、安房に帰ることが叶いません。結城で八犬士を襲った悪僧・徳用は、武芸大会にかこつけて親兵衛を殺そうとしますが失敗。京の五虎と呼ばれる武芸の達人を次々と倒した親兵衛の武名が広まります。そんなある日、巨瀬金岡が描いたという「瞳無しの虎」の絵が管領家に持ち込まれました。政元はその絵の虎の瞳を描かせます。すると、虎が絵から飛び出して白河の山中に走り去り、時々人を襲って京の人々を恐怖に陥れたのでした。政元は親兵衛に退治を依頼。親兵衛は安房に帰ることを条件に引き受けます。親兵衛は白河の山に入り虎の瞳を撃ち、虎はたちまち絵に戻って行きました。こうして、親兵衛は関東をめざし中山道を帰途についたのでした。

ようやく八犬士が揃いました！そして、ついに関東管領との戦いが始まります。

(古川久美子)

好日市川句会

主宰 長峰竹芳様

(東京都・江戸川区)

「自由な発想と自分の言葉でそれぞれの精神風景を構築する」ことをめざして阿部篤人氏により、昭和27年、千葉で創刊された「好日」。2006年(平成18年)より、長峰竹芳さんが主宰をつとめています。春まだ浅い3月8日、市川公民館で行われた「好日」の市川句会にお邪魔しました。

本日は当季雑詠3句出句の5句選。選句、披講に続き、名前を伏せたまま各人が選んだ句を講評します。司会は佐藤洋子さん。声優になりたかったというだけあって、ゆったりとした聞きやすい名調子。さて、どんな展開になるのでしょうか。

春キャベツたっぷり食べて税上がる 幸子
・4月から8%上がった消費税。時事的な俳句でありながら、一方では春キャベツを健康的にしっかりと食べているという現実、そのギャップがおも



▲句集のほか、経営関係の著書もある長峰主宰

しろいと思った。
主宰：「税が上がることに對しての、風刺が効いている句。」

日本橋蠣殻二丁目春北風 憲子

・内容が特にあるわけではないが、読んでいて調子がいい。蠣殻という字の重苦しさ、春北風の軽さ、この対比がよくできている。

主宰：この日本橋〇〇という形は俳句でもよく出てくる。正しくは日本橋蠣殻町と町まで言わないと、挨拶句として不十分。省略している町名は随分あるが、神田と日本橋に関しては日本橋茅場町、日本橋新富町、神田鍛冶町、神田岩本町などと省略しない。これは旧東京市35区が22区に再編された際、神田区と麹町区は千代田区に、日本橋区と京橋区は中央区になったが、神田区、日本橋区に愛着を持っていた住民たちが反対したため、旧町名の頭に神田や日本橋を残したことによる。こゝは、日本橋を省略してもいいが「町」は省略しない。

この頃の食感鈍感春寒し 美佐子

主宰：「食感鈍感」と韻を踏んでいるところを、おもしろいといつて採る人とうるさく感じる人がいると思う。食感鈍感、それ自体はいいが、漢語と和語と比べたら日本語の場合はなるべく和



▲9月に通巻750号を迎える月刊「好日」4月号

語にした方がいい。食感、鈍感ともに音が漢音なので、2つ重ねると漢語、漢語でうるさくなる。また、リズムはいいが、この句の場合は名詞止めにした方がいいと思う。

春の雪淫らに溶ける化粧坂 佳都子

主宰：化粧坂は鎌倉の北西部、鎌倉へ入る七つの入り口の一つにある坂。砂岩で地質は硬いが、春の雪がとけてなるとなくグラグラとした感じを淫らと詠んだのでしょうか。こゝは新田義貞の鎌倉攻めの時、打ち取った敵の首を洗って化粧したことに由来するというから、本来はそんななまめかしいものではない。そういう意味で「淫ら」が適切かどうか。それに、本来は化粧坂と書くのが正しいが、化粧坂でも問題はない。

竜天に登る跳箱置き去りに 健文

・気分としてよくわかる句。跳箱に象徴されるように、残されたものと去っていったもの：その対比がそこはかとなく感じられて、この時期のいい句だと思つた。

沖遠く見る三月の眼になつて 竹芳

・藤田湘子の「愛されずして沖遠く泳ぐなり」が下敷きとなつて、少年時代や若いときを見つめ直しているような作者の眼を感じていただいた。

主宰(作者)：これは3月の挨拶句。

東京大空襲の3月10日と、東日本大地震の3月11日のある3月。

睡眠の過ぎたる疲れ地虫出づ フミエ

・なかなか眠れない方なので、うらやましいなと。きつと丸々と太った地虫が出てきたことでしょうか(笑)。

栄螺に渦巻南岸低気圧 雄治



・栄螺に渦巻、それと南岸低気圧の取り合わせ。こういう作り方があるんだなあと感じていただいた。

主宰：「栄螺に」と「に」が入っているから「南岸」も「に」を入れて「栄螺に渦巻南岸に低気圧」としたいが、「南岸低気圧」で一つの単語だから、このままでもいいかな。ズレのおもしろさ、取り合わせの妙、味のある句。

ゆるき坂道蒲公英の地べた咲き 澄江

・「ゆるき坂道」が、たんぽぽが地べたに咲いて、春がきたなという感じを醸し出していてとてもいい。「地べた咲き」という言い方にもひかされた。

主宰：ふつうはどの草花も地面に咲いているが、改めて「地べた咲き」と言われると、しっかりと咲いている、そんな印象を受ける。うまい発見。

名にし負ふ鶯餅の鳴くを待つ 健文

・鶯餅はもちろん鳴かないが、鳴くのを待つ、というところがメルヘン調でいい。



主宰：「名にし負ふ」などと踏ん張らなくていいと思う。

節目に音符のごとく落椿

艶子

主宰：しっかり見ているように思うが、この手はみたことがある。類句があるということ。

のどかさや一人でこなす田中歯科

三雄

・歯科医院もたくさんあつて経営が大変。小さなクリニックなのでしょう。「のどかさや」でつないでいておもしろい句。

・駅前ではなく住宅街にあるガラス張りの、パートさんが受付に一人、奥さんが歯科衛生士をやっている3人の小さな医院。パートさんがちよつと出かけて、奥さんは自宅の方に宅急便の荷物を取りにいつて…という景が読めた(笑)。

主宰：言われてみるとおもしろい句かもしれない。ただ田中歯科の固有名詞がどうか。「こなす」ではない言葉がは

しい。中嶋さんの句？ だったら「のどかさや一人の中嶋クリニック」でいいじゃない(笑)。

浅草の厚焼卵針供養

健文

・先日、原田さんにおいしい浅草の卵焼きをいただいた。針供養との取り合わせも浅草らしくいい。

干鰯噛みるる午後二時のサスペンス

依子

・私もサキイカなど食べながら、夢中になってサスペンスを見ていることがあるので、共感していただいた。忙中閑有の様子も見える。

主宰：これ、作者がわかつたからパスした(笑)。

春めくや骨董店の京人形

三雄

主宰：先ほども出ていたが「骨董店」と「春」の取り合わせは非常に多い。それに、骨董店に「物」の取り合わせは安直。

九竅^{きゅうきやう}をくるむカシミア春の雷

竹芳

・人間にある9つの穴とカシミアができて春の雷、すごい句だと思った。

主宰(作者)：本当は九穴全部はくるまないからね、ちよつとウソっぽい。松尾芭蕉の『笈の小文』にある「百骸九竅^{ひやくがいきゅうきやう}」のように、体全体という意味で作つた。今着ているこれカシミア(笑)。

※1人や哺乳動物の体にある九つの穴(口・両眼・両耳・両鼻孔・尿道口・肛門)の総称。
※2百の骨と九つの穴を持つ人間の体の意

春うらら麒麟の首の骨七つ

伊つ美

・麒麟のゆつたりとした長い首と、春のうららかさとの取り合わせのよさ。あんなに長い首なのに、骨は7つしかないことにも改めて驚く。

主宰：麒麟は中国の伝説上の動物なので、この場合は「麒麟」とした方がいい。首の長い短いに関係なく、人間も含め脊椎動物には7つの頸椎がある。

春遅々と漢方薬を日に四度

美佐子

・漢方薬は続けてじつくり飲まないとな効かない。それも、朝、昼、晩、就寝前一日4回でしょうか。ゆつくりと春がくる様子との取り合わせがよく効いている。

主宰：ご苦労さん(笑)。

春埃女世帯の男靴

静

・女所帯という割と小ぶりの靴が並んでいると思うが、そこに埃をかぶつた男靴。さつぱりと詠いながら、男靴の存在感がよく出ている。

主宰：2通りに読める。男性の客があつたのか、女でも男靴を履く場合があるから、そういう靴があつたのか。

・用心のためでしょ。

主宰：ああ、そうか。

刃物屋の刃物に触るる余寒かな

佳都子

・プロの使っている包丁は魅力的で、引き込まれるような美しさについてまでも見ていたい気持ちになる。余寒が効いている。

主宰：日本橋の「木屋」で庖丁を買つたとき研いで渡してくれた。でも、刃物は錆が浮くのでやたらにさわっちゃダメだよ(笑)。だから光とすればいい。「刃物屋の光に触るる余寒かな」。余寒と光と刃物がうまく響き合う。

耳の日や二円切手をついで買ひ

洋子

春の雲岩田帯など巻きしころ

一枝

稔



▲女性13名、男性5名 女性優位の会!?

故郷なき身も「ふるさと」を歌ふ春
ひろし
隴夜の邪馬台国はどこかしら
豊子

★新聞記者を経て、以前は会社を経営されていたという長峰主宰。御年85歳とはいえ、頭の回転、会話の切り返りは若者なみ、いやそれ以上。それも、まどろっこしいことは言わず、スパッと江戸弁でくるから小気味いいことこの上ない。現在は、現代俳句協会の要職に就かれているが、月5カ所の指導に足を運び、毎年の全国大会や鍛錬会(今年は北陸路)も回を重ねている。主宰がリードし、その主宰をバックアップする面々。一つの組織としてしっかりと成り立っている心優しき方々の会でした。(木戸敦子)

『風塵』一句とその想い出』
新堀鉄朗様
(東京都・北区)

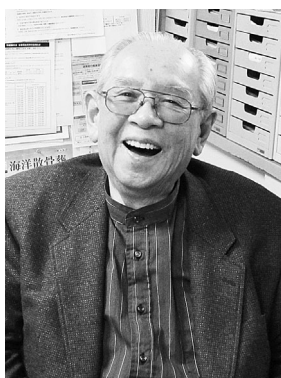
本年一月『風塵』一句とその想い出』を上梓された新堀鉄朗さんをご自宅にたずね、お話を聞きしました。

■俳句歴は長いのですか

旧姓中学2年の頃、俳句にのめりこんでいた教師に、無理やり句会に誘われたことがきっかけ。以来、仕事で忙殺された10年程のブランクはあるものの、先日88歳を迎えたのでかれこれ70年超になろうか。大正末期に生まれ、戦時中は何ひとつ楽しみもなく、戦後は結核で長い闘病生活を余儀なくされた身にとって、いわゆる青春とは無縁で、それが拙い俳句につながったのであろう。

■闘病生活ですか？

昭和25年5月31日、3日にわたり7回も咯血、そのショックからか父は脳出血で6月17日に他界。2ヶ月間絶対安静が続き、父の死を知らされたのも病状が落ち着いてから。こんな人間でも頼りにされていたのだと思う



▲戦時中は「暗号電報室」配属 抜群の記憶力の新堀さんは現役の社労士

と今でも胸が痛むが、周りは毎日のように死者として担ぎ出される日常。とりあえず始めた「気胸療法」で咯血は止まったが、量針のような太い針を麻酔もかけずに脇の下の肋骨に刺し、肋膜の間に空気を入れるという拷問のような治療で、そのブスツと刺す音がいまだに耳に残っている。奇跡的に命を取りとめたが5年間よく耐えたと思う。そんな絶望的な毎日の中で、俳句は私の信仰に近い存在であったかもしれない。

■俳句にのめり込んだということ？

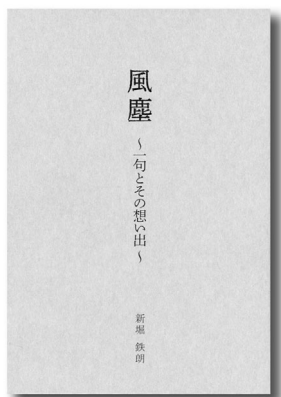
27年頃に職場復帰を果たし、東京国税局のあげび句会に参加。そこで唯一の師である前田鬼子と出会い、師の主宰する『俳句文学』に投稿するようになり。27〜35年頃は真摯に俳句に打ち込み、仕事を終えてから編集を手伝い終電で帰ることも多かったが、一番楽しいひと時でもあった。当時の作品

花冷えの宙に玩具のねじを捲く S29

玩具のねじを捲く音が聞こえてきそうだと主宰に激賞され、自分でも気に入っている句。

黄落の犬人よりも淋しき貌 S30

勤めながら「気胸療法」を続けていた頃で、犬を通して自分の健康に対する不安感が出ている。



▲俳句とともに歩んだ人生を彷彿とさせる一冊

主宰はよく「俺が死なないうちに句集を出せ」と言っていたが、それは叶わなかった。鬼子の好きであった「瑞々しき勾配野火の去りしあと」の句にちなんで、墓碑のつもりで『句集 勾配』を出した。以来20年以上経つが、なかなか死なないもんだから、俳句とともに歩んできた生活を書き残しておきたいと、俳句とそれにつつまる想い出を記したのがこの『風塵』。よく「お前の俳句はわけがわからない」と言われたが、花より団子、花鳥風月より人間に興味がある。東京近郊の長男のところに引っ越して驚が鳴いていても、二、三日で帰りがたくなっちゃう(笑)。

■都会っ子なんです

こゝ滝野川の生家前(旧中山道沿い)は映画館で、日曜祭日もなく当時は毎日10時の開館のベルが30分も鳴り響いていた。大げさに言えば映画館のベルとともに育ってきたようなもの。だから映画や音楽が大好きで、3000本以上あるDVDは私にとっては宝物。自転車で近くの本屋に行くこともあるが、なかなか遠出できなくなったので、見たい映画のDVDや本はインターネットで注文し、囲碁や将棋もパソコンで対戦している。夜12時前に寝ることはないですね(笑)。

■俳句は今も？

昭和62年、鬼子主宰を亡くしたあと、しばらくおいて平成8年に旧同人を中心とした「奇数会」に参加し、平成23年の解散まで約15年間小使役を勤めた。

花水木少年と雲併走す H13

珍しく正統派的な俳句ができた(笑)。

春夏秋冬いずれになるやわが忌日 H15
西行のように「願わくば」と贅沢なことは言えないが、どの季節に死ぬのだろうか一応気になる。

幸せなふりする妻の衣更え H17

すべて任せきりで、何もしてやることがない。妻がどんな気持ちで過してきたのかを考えると不安だが、しょせん大正生まれの不器用な人間。

■今後めざすことは？

輪ゴム長く引つ張つて見る雪もよひ S29
こんなふうには、さりげない動作の中から詩を引っ張り出すのが、めざす句境。そして、母に対しては沢山の思い出があるが、その割に母の句をほとんど作っていない、というより作れない。死ぬまでに母に対する感謝の句が作れるかどうか。あとは呆け防止にと、右手一本でパソコンを雨だれ打ちしながら綴っている昔の想い出を一冊にまとめたい。今でも経済的に厳しいから、これ以上呆ける前に頑張るしかない。妻には白い眼で見られているが(笑)。

★医者には「用のないのは産婦人科だけです」と言われるほど、多病息災の人生だったというが、話していると「ネアカ」で何でも見てやろう、やってやろうという強い好奇心を感じる。お母様との思い出、そして、言葉には出さずとも常に心配していた病み上がりの奥さまを大切に、これからも生涯を通じて一番好きな食べ物、より美味しい「とんかつ」を求め続けてください。そして、ご本人が望む「平凡な幸せ」の中にあられますことを願って止みません。(木戸敦子)

投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。しめきり 2014年5月16日(金)まで ※作品は原稿どおりに掲載しております。

川柳

- 1 八十路脳九条暗記鼻謡う
植松與悦(山形県)
- 2 長生きが「得」と思える世にしたい
安木沢修風(新潟県)
- 3 生き様を語る才女の厳しい目
藤井碩子(山口県)
- 4 菜の花に誘われ蝶の無言劇
久本にい地(岡山県)
- 5 あのナース熟女に変わる更衣室
山崎一嘉(愛媛県)
- 6 寝て笑う羅漢まあねといけるくち
石原岳(群馬県)
- 7 春ですぬ男と女ヒト科です
小山恵美子(大阪府)
- 8 ポロポロの辞書だが五十年捨てられぬ
大江秋月(兵庫県)
- 9 小正月繭玉飾り思い出す
藤田三四郎(群馬県)
- 10 泣き笑い小言も多いがマイホーム
工藤昌見(山形県)
- 11 逃げのびた犯人は春謳歌する
松尾健二(千葉県)
- 12 サクラ咲く春春春よ春よ来い
石神紅雀(鹿児島県)
- 13 年取るもわからないことがこまんと
原崇雄(埼玉県)
- 14 冬木立勇気をくれてありがとう
近藤はつみ(福岡県)
- 15 待ち人が来て雪を掻く峡の家
土谷敏雄(秋田県)
- 16 マドンナも皆と同じく歳重ね
福地義雄(沖縄県)
- 17 特攻隊消耗品の如扱はれ
栗原黎(群馬県)
- 18 飽きるほど生きて今年も初日の出
守屋高雄(岩手県)
- 19 毎日の暮らしの中に夢求め
松田義登(福岡県)
- 20 老母よりは先に逝けぬと踏むたら
竹村穂夫(大阪府)
- 21 追憶にひたる竹馬の友のこと
安田翔光(香川県)
- 22 金星とランデブーする細い月
奥田音野(香川県)
- 23 儂さが愛着誘う桜花
細川光子(栃木県)
- 24 夏の日を忘れて今日も暑いねえ
岡本恵(茨城県)
- 25 打ち水と一緒に月も捨てられる
櫻崎篤子(京都府)
- 26 寝てる間に死んじゃいかんと目が覚める
嶋田征次(東京都)
- 27 自動車の流れも止まる深雪坂
青木日出男(群馬県)
- 28 よう飛んだジャッチより先に一〇〇点や
佐伯セツ子(香川県)
- 29 ほんのりと灯りがともる雪の夜
諸橋文男(新潟県)
- 30 今がある人のお陰を振り返り
鈴木義雄(福島県)
- 31 けとばしを食べていなく初春へ
加藤勇(東京都)
- 32 本当のトシで入院しています
山口千鶴子(東京都)
- 33 雑草の強さに負ける狭い庭
羽田桐柳(群馬県)
- 34 囁きははやめて悪女が目覚ます
戸田美佐緒(埼玉県)
- 35 沢山の笑みであふれる春になれ
大橋絵代(千葉県)
- 36 シャッターを待つ歳の差のない笑顔
奈倉栗甫(愛知県)
- 37 壁紙の汚れ残して子は巣立つ
中林恵子(大阪府)
- 38 娘の手紙余白に涙のあとがある
大岩歌子(岡山県)
- 39 夢創る快拳リケジョは割烹着
勢藤隆(群馬県)
- 40 佳句探す心喝してをりにけり
山口昇(群馬県)
- 41 子供より親を教育したい国
森恒雄(愛知県)
- 42 心配な隣りの静か老い独り
高松秋良(群馬県)
- 43 生きるのにカネ死んでゆくのにもカネ
高柳閑雲(愛知県)
- 44 荒波もさざ波もある夫婦舟
三宅得三(新潟県)
- 45 雪の日はこどもにかえり雪の玉
奥那於子(大阪府)
- 46 ニュータウン向こう三軒老いばかり
藤沢健二(千葉県)
- 47 母百才美人薄命うそと知り
大久保アヤ子(東京都)
- 48 少しでも飾って一歩前へ出る
野田明夢(新潟県)
- 49 人災を天災としてカラ廻り
野中よしみ(神奈川県)
- 50 句友逝くまさか真逆の来る別れ
後藤すえひろ(福岡県)
- 51 大雪に「電波の巧妙」スマートホン
栗原清(埼玉県)
- 52 たつぷりと葱食べ風邪を遠ざける
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 53 老いの友向う三軒両隣
近藤富夫(東京都)
- 54 古野良着亡母の匂いまだ残り
渡部美代子(山形県)
- 55 「頑張れ！」に「ええ加減でいいよ！」と婆返す
鈴木岑夫(千葉県)
- 56 夢を食う猿よりきらい村の口
山口昭利(静岡県)
- 57 薄氷の底に青空昼の月
小野正光(宮城県)
- 58 朧月喜怒哀楽もおだやかに
橋本世紀男(東京都)
- 59 湿原の流れソナタに座禅草
大塚徳子(埼玉県)
- 60 春の雨色なき庭の石ぬらす
堅田秀子(東京都)
- 61 理髪舗の鏡を飾る木瓜の花
星野三興(新潟県)
- 62 孫集い聞き役の今日シクラメン
副島加代子(宮城県)
- 63 盆梅や趣味持て余す齡得て
尾股清一(福島県)
- 64 古時計しつかり刻み年明ける
水落重式(新潟県)
- 65 ホーホケキヨ何処からかと木々仰ぐ
長谷部喜代子(大阪府)
- 66 明け方に水のさ、やき露のたう
須澤重雄(長野県)
- 67 鉢に咲くクリスマスローズ誕生日
山本せつ子(鹿児島県)
- 68 路の臺パツクの中や道の駅
大橋恒次(新潟県)
- 69 鳶の家独居儉しき寒牡丹
松田重信(埼玉県)

俳句

- 52 たつぷりと葱食べ風邪を遠ざける
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 53 老いの友向う三軒両隣
近藤富夫(東京都)
- 54 古野良着亡母の匂いまだ残り
渡部美代子(山形県)
- 55 「頑張れ！」に「ええ加減でいいよ！」と婆返す
鈴木岑夫(千葉県)
- 56 夢を食う猿よりきらい村の口
山口昭利(静岡県)
- 57 薄氷の底に青空昼の月
小野正光(宮城県)
- 58 朧月喜怒哀楽もおだやかに
橋本世紀男(東京都)
- 59 湿原の流れソナタに座禅草
大塚徳子(埼玉県)
- 60 春の雨色なき庭の石ぬらす
堅田秀子(東京都)
- 61 理髪舗の鏡を飾る木瓜の花
星野三興(新潟県)
- 62 孫集い聞き役の今日シクラメン
副島加代子(宮城県)
- 63 盆梅や趣味持て余す齡得て
尾股清一(福島県)
- 64 古時計しつかり刻み年明ける
水落重式(新潟県)
- 65 ホーホケキヨ何処からかと木々仰ぐ
長谷部喜代子(大阪府)
- 66 明け方に水のさ、やき露のたう
須澤重雄(長野県)
- 67 鉢に咲くクリスマスローズ誕生日
山本せつ子(鹿児島県)
- 68 路の臺パツクの中や道の駅
大橋恒次(新潟県)
- 69 鳶の家独居儉しき寒牡丹
松田重信(埼玉県)

投稿作品



- 70 尿少し頻りに洩れる寒牡丹 浦橋渴雪(兵庫県)
- 71 心字ヶ池大賀蓮の花開く 渡邊碧海(静岡県)
- 72 二番目の人と結婚四月馬鹿 関根千恵(埼玉県)
- 73 凍鶴の孤高を持して相寄らず 川口襄(埼玉県)
- 74 被災地の語り部つらし冬の海 松尾らん(東京都)
- 75 山一つ越せばふるさと春隣 三ツ木宗一(東京都)
- 76 樹々に啼く初声のみな寿げり 千代田俳徒(東京都)
- 77 家族みな天に捧げし春彼岸 阿部澄江(宮城県)
- 78 風の色目つむれば見ゆ春彼岸 阿部徳夫(宮城県)
- 79 久々の大雪掻きや金メダル 井田由利子(宮城県)
- 80 寒夕焼け栗駒山の嶺耀えり 大場さよし(宮城県)
- 81 天井の津波の跡や夏つばめ 浅野信廣(宮城県)
- 82 雪解川山を引き連れ流れけり 田中昶(鳥取県)
- 83 河馬眠る泰然自若の春の昼 武市愛子(大阪府)
- 84 師走入り喪中葉書に絶句する 山崎吉晴(群馬県)
- 85 針の目に通らぬ糸や一月尽 山田幸代(兵庫県)
- 86 白梅の日差しの下に猫眠る 津田吾燈人(高知県)
- 87 筆勢のいと柔らかき花便り 有坂馨園(福島県)
- 88 大雪や脱原発の道遠し 関原幸子(東京都)
-
- 89 寒き夜や学習塾の煌煌と 吉田律子(新潟県)
- 90 暮れ時の旗あふらるるかざはなも 安部哲(新潟県)
- 91 夫が好みし味噌和えや露の臺 清まさじ(静岡県)
- 92 ふと窓に囁きかける春の月 小澤円梨(静岡県)
- 93 冴返る大仏壇の家紋かな 川崎洋吉(福岡県)
- 94 出ておいでおいで繁みの寒雀 木村貞恵(静岡県)
- 95 春月や縄のはしごをかける猫 椋本望生(大阪府)
- 96 八十は大きな峠草青む 阿部至(埼玉県)
- 97 海苔の砂芭蕉さんより永生きし 小島岳青(新潟県)
- 98 春寒や猫にもありぬ気の病 小山羊子(新潟県)
- 99 きらきらと水かがやかす声の角 服部八重子(東京都)
- 100 雪の日の笑顔で終るボランティア 石戸幸子(埼玉県)
- 101 糸遊を纏ひて父母が歩いて来る 原田麦吹(埼玉県)
- 102 昆陽の池本籍移す残り鴨 凵子利明(兵庫県)
- 103 参道のかたへに走る雪解水 伊藤やゑ(東京都)
- 104 春吹雪破れ傘積む道の端 平野貴美(東京都)
- 105 春泥や優先席のゴム長靴 石井美智子(埼玉県)
- 106 店ごとに店それぞれの雪だるま 河越正行(神奈川県)
- 107 炬燵居の外より聞こゆオニシヨト 穂積光子(東京都)
-
- 108 靖国へ県民祭る腹の凍て 仲里達也(沖縄県)
- 109 白梅の美しさを競う山路かな 小井寒九郎(三重県)
- 110 名作の所以をとくと春の宵 大谷茂(埼玉県)
- 111 余寒なほ始発電車の人まばら 長峰正晴(千葉県)
- 112 落ちてなほ情念の色紅椿 鈴木智子(千葉県)
- 113 医学生遂に成功寒明け 小形さだ(東京都)
- 114 大東京驚かしたる春の雪 井原毬子(東京都)
- 115 雪像作りパーツ小屋に卒寿居て 有田裕子(北海道)
- 116 残雪や踏めば沢庵かむが如 三津木俊幸(千葉県)
- 117 拾いたる絆一つや飛花落花 加用章勝(千葉県)
- 118 練貫つて八十路の鬢が少し飛ぶ 林克(福島県)
- 119 黒船が遊覧船に長閑なり 青木涼子(埼玉県)
- 120 春昼の祈りの椅子にゐてひとり 環順子(東京都)
- 121 地球今生きて火を噴く昭和の日 緑川禎男(埼玉県)
- 122 梅一輪百歳超えし笑顔かな 鮫島茂利(兵庫県)
- 123 雪の夜半敗者におくる大拍手 西口東治(大阪府)
- 124 うららかや各駅停車乗り継いで 大内泰子(東京都)
- 125 みどり児のまあるい欠伸日脚伸ぶ 渡辺嘉幸(東京都)
- 126 冬たんぽぽ夕陽に垂るる犬の耳 星井千恵子(埼玉県)
-
- 127 惜春や姉の形見の舞扇 高崎登喜子(東京都)
- 128 三寒やたつた一人の露天風呂 古谷力(東京都)
- 129 日脚伸ぶ凍み大根の笑い皺 沢田稲花(山形県)
- 130 亡き母の屑蘭紡ぎ機の音 西條公雄(埼玉県)
- 131 鯉寄りて大きな欠伸春隣 安部世衣子(埼玉県)
- 132 きさらぎの雨や眼をむく鬼瓦 宮崎敏昭(埼玉県)
- 133 寒紅や恙無きこと振舞うて 木村美智穂(埼玉県)
- 134 桃の花活け筆文字の滑らかに 橋本良子(埼玉県)
- 135 S Lに復興願ひし走り出す 杉村美保子(岩手県)
- 136 下萌に放てし孫の速さかな 井上静夫(栃木県)
- 137 厳寒に漁の男の雄姿かな 塚田寿子(埼玉県)
- 138 梅が香に今日の幸かみしめる 青木ケン子(埼玉県)
- 139 涅槃会に猫えがかれぬいわれ聞く 中村慶子(滋賀県)
- 140 父と児の同じ寝姿掘炬燵 佐瀬千恵(神奈川県)
- 141 初夢は並んで歩くところまで 湯浅芳郎(岡山県)
- 142 大津宿風流海道糸柳 炭崎博(滋賀県)
- 143 浅春のボート部員のランニング 内田稔(埼玉県)
- 144 花吹雪諸肌脱いでみせまひよか 稲垣恵子(埼玉県)
- 145 モーツァルト広い店内雛あられ 竹本芙美子(新潟県)

- 146 二日はや常の身仕度商えり
重原昇(新潟県)
- 147 山眠る馬の出産待つ家族
小山たけし(埼玉県)
- 148 小町針ほどの蕾や梅二月
津田忠彦(岡山県)
- 149 野焼火の匂ひしみたる半被脱ぐ
山本直子(大阪府)
- 150 初日の出誰もが海に向いて付つ
金子範子(高知県)
- 151 海見ゆる世界遺産の山笑ふ
菊池シユン(青森県)
- 152 鎌倉や公達の墓梅真白
吉里ひとみ(東京都)
- 153 山里の囁く風に木々芽吹く
杉原明子(静岡県)
- 154 こわごとと浮世を覗く露の臺
北村純一(神奈川県)
- 155 見はるかすわが青山や初景色
佐野和彦(静岡県)
- 156 水底の物の怪なるや蟹気楼
吉村充治(埼玉県)
- 157 罪なくも手足縛られずわい蟹
鈴木与平(宮城県)
- 158 狛犬の耳に掛かりし花埃
忍正志(兵庫県)
- 159 春の星背の子寝かす遠き日も
堀木和子(大阪府)
- 160 早春の光の透けり杵山
澤雅子(大阪府)
- 161 笹舟に春の小川は奏で出す
油谷郷史(兵庫県)
- 162 造成の荒地に群る春すゞめ
駒場京子(神奈川県)
- 163 鯛飯がほつり炊けて春隣
長野光康(神奈川県)
- 164 町川の鳴る瀬にすがら春の雪
清水勝子(神奈川県)
- 165 春宵や美酒と乙女に吾忘れ
齊藤安弘(神奈川県)
- 166 目隠しを解けば微笑む難かな
大阿久雅子(埼玉県)
- 167 病棟に妻置いてくる京しぐれ
有本正嗣(京都府)
- 168 人影を攫ひ銀座も雪しまく
紺谷睡花(東京都)
- 169 友逝くや語尾のふるる隙間風
小野寺裕子(宮城県)
- 170 琴の音の洩るる小家や春深雪
鈴木清子(埼玉県)
- 171 着ぶくれて帽子にはさむ乗車券
田島星景子(宮城県)
- 172 寒の日や底光りして寺本堂
菅原茂子(宮城県)
- 173 掌の人を呑みこみ春立てり
倉田淑子(東京都)
- 174 気楽に生きよ柚子の湯に教えられ
内河邦久(東京都)
- 175 馬道はぢぐざぐ登り山ざくら
吉田未灰(群馬県)
- 176 ひらがなの都市が眼を引く建国日
高杉杜詩花(北海道)
- 177 悪声も押しのごみや恋の猫
増本和子(大阪府)
- 178 あらためて雨靴買ふや春の雪
福田和子(東京都)
- 179 もういいかいまだだよと水柱伸
増島淳隆(東京都)
- 180 野水仙茎折れてなほ香りけり
坂山陽康(滋賀県)
- 181 友の文行間に見る春の声
乾久子(滋賀県)
- 182 早早と道路に目立つ梅まつり
早矢仕邦夫(愛知県)
- 183 アロエ咲く炬火を掲ぐるごとく咲く
寺内信(埼玉県)
- 184 道問はる吾も過客や梅日和
大西誠一(岐阜県)
- 185 楼門の神鶏抱き合ふ銀世界
神一男(静岡県)
- 186 牡蠣食へば母のぬくみを感じけり
津布久信雄(東京都)
- 187 門灯を消す立冬の暁の色
村山砂田男(新潟県)
- 188 幼な子の墓前に供え桃の花
原田かずゑ(神奈川県)
- 189 もしかしてしよばいかもや梅の花
近藤薫也(千葉県)
- 190 雪被害北の友から見舞状
藤井春三(埼玉県)
- 191 子ら嫁ぎ吾も母の子雛飾る
水川聖子(埼玉県)
- 192 寒の水ふふみて感を取りもどす
片山茂子(埼玉県)
- 193 江戸切子かくわしき酒まんさくの花
矢野絹枝(東京都)
- 194 春泥や跨ぐか跳ぶか八十路坂
布目雅之(東京都)
- 195 日捲りの新旧ことごと弥生尽
阿部幸子(宮城県)
- 196 春暁や四回転の金メダル
片岡啓子(埼玉県)
- 197 大雪に戸惑いみせる大都会
塩崎須美子(神奈川県)
- 198 水仙のほころびそめし隠れ里
中嶋清子(佐賀県)
- 199 フラミンゴの字3の字春動く
大窪美代子(大阪府)
- 200 語り芸一葉を聴く水仙花
中山日出子(大阪府)
- 201 とつとつと表面張力新走
岩崎政弘(岡山県)
- 202 山笑ふグラムで売られて備長炭
池田岬(埼玉県)
- 203 制服の丈の余りて入学す
若月理依子(新潟県)
- 204 鬼は外福やや多く鬼やらい
中村康浩(福岡県)
- 205 都忘れネズミの寝り紫に
白戸麻奈(東京都)
- 206 深窓の美女さながらに床の梅
仁藤ひろし(埼玉県)
- 207 春を待つ心に託す今一度
山本紀昭(埼玉県)
- 208 藁楷を何に代えよう初雀
中野勝子(鹿児島県)
- 209 デコボコを心に織つて春日射
木村舩(山形県)
- 210 角々に雪ダルマあり児が跳る
坂本むつ子(埼玉県)
- 211 三月十一日はまだそのままに
福岡悟(東京都)
- 212 名草枯れ匂はぬまでも日を返し
上村元義(神奈川県)
- 213 春泥を幼児遊びの庭日向
道給一恵(埼玉県)
- 214 包丁の手元たしかに日脚伸ぶ
平山千江(岩手県)
- 215 春の日や雀の群れて羽づくろひ
古川正栄(千葉県)
- 216 カタログの朱の靴決めて米寿かな
笠原千恵子(新潟県)
- 217 春の夜半ダイヤの泪人魚姫
山本理香(大阪府)
- 218 好き日数少なき齡二月尽
長居美弥子(北海道)
- 219 春霞まとわけて立つ木立かな
須田洋子(埼玉県)
- 220 春めきて老いも若きも輝きぬ
神作洗江(埼玉県)
- 221 今日明日と決めかねてゐる地虫出づ
長島保子(東京都)

投稿作品



- 222 汀女の碑うす紅梅の香の中に
小林紀美子(東京都)
- 223 今朝も又傘寿の雪掻きああしんど
柳澤京子(宮城県)
- 224 古刹より流る御詠歌彼岸入
宇田川正雄(埼玉県)
- 225 独活食めば香に立ちてくる母の顔
中澤寿美(神奈川県)
- 226 前垂れをかえし地蔵や雪残る
中田文子(大阪府)
- 227 水仙のかほる越前風二月
池本勇(奈良県)
- 228 手揚げより顔出す小犬冬麗
小林七重(新潟県)
- 229 陽にとけてポトポト落ちる屋根の雪
鈴木みえ(長野県)
- 230 独り居の二月をゆるする流行風邪
佐藤正子(福島県)
- 231 門毎に積み上げられたる春の雪
星一子(神奈川県)
- 232 春浅し冷たい犬の足洗ふ
芋木匡子(滋賀県)
- 233 春昼の思ひもかけぬ深眠り
竹田栄(東京都)
- 234 冬薔薇棘なる自我の力瘤
中高純子(新潟県)
- 235 照らされし菜の花明日も幸ならむ
河合ヤスエ(大阪府)
- 236 大雪や一茶生涯二万余句
岩村昇(神奈川県)
- 237 スカイツリーガリバー気分春休み
中野豊彦(東京都)
- 238 卒業や以下同文のなき行く手
今井勝子(新潟県)
- 239 補聴器に拾ふかすかな春の音
秋谷静子(茨城県)
- 240 大雪や空の青さを閉じにけり
松前邦広(千葉県)
-
- 241 文箱より恩師の手紙あたたかし
浜田はるみ(埼玉県)
- 242 薄氷の掬ふ柄杓を引き離す
西川孝子(奈良県)
- 243 雪を踏む音響かせて父帰る
小林春雪(新潟県)
- 244 万物の被曝恐れぬ盲鍋
菅井文男(新潟県)
- 245 しぐるるや独りの土鍋炊き上る
岡村君枝(茨城県)
- 246 親になる心の準備根深汁
黒岩正子(埼玉県)
- 247 桜貝耳に当てれば波のうた
堀井醉人(茨城県)
- 248 雪の唄お隣遠くなりけり
鏡たか子(山形県)
- 249 日本海の潮風過ぎる花筵
成田節子(山形県)
- 250 逝きし友見送る列に雪しまく
高橋まさ子(宮城県)
- 251 垣内の梅の香りに季を知る
中村和弘(愛知県)
- 252 建国日勅語の終はり御名御璽
濱田イサオ(福岡県)
- 253 梅一輪頑固親父の頬ゆるむ
石川郁子(埼玉県)
- 254 特上の茶に入れ替えて桜餅
磯部力(新潟県)
- 255 柔らかき土の匂ひの雪間草
福山三智子(東京都)
- 256 菜の花は料理の皿に盛られけり
山崎紀久江(福岡県)
- 257 西日入り雄雞雌雞も日向ほこ
出井静枝(三重県)
- 258 南から北へと夜汽車雪催
鈴木蝶次(宮城県)
- 259 輝けど儂く消えし春の雪
山岸伊久雄(東京都)
-
- 260 畦走る野焼きの火種振りかざし
田野井一夫(栃木県)
- 261 サイフォンの湯気盛りにて冴返る
井上氣海(広島県)
- 262 ようやくに早朝木々の姿見せ
木下精(大阪府)
- 263 うろこ雲星影のワルツ聞きながら
森俊彦(神奈川県)
- 264 草の雪万古の思い踏みしめて
神野弘(岡山県)
- 265 薄ら雪はらはら踊る蒼き煌晴れに薄く吸いし清息
小黒深雪(新潟県)
- 266 今一つ胡散臭さのある造語アベノミクスに潜むまやかし
大竹憲弥(新潟県)
- 267 元旦の朝ヘルパー嬢に手をば牽かれ初詣とは開運なるか
今井忠一(東京都)
- 268 うつすらとベールに隠れ朧月見守るように励ますように
居原田連星(大阪府)
- 269 あたたかい風に吹かれておはようの鳴き声のこしジユウカラ去る
早坂絃司(北海道)
- 270 官兵衛を思いのままに語りゆく史家の筆致や吟醸のごと
篠原三郎(静岡県)
- 271 あわてないもう転ばない日々をしめくくるのは終活の私
高須孝(愛知県)
- 272 暖かい炬燵にもぐって好きな音楽をきいていて眠ってしまった天井の螢光灯である
梅澤鳳舞(埼玉県)
- 273 ほろにがきふきの臺食むしばしの時はらから頭ちてふる里を恋う
緑川葉子(福島県)
-
- 274 古里の山に向ひて謝罪する元に戻せぬふるさとの山
黒澤正行(福島県)
- 275 紫の緋柄なる銘仙に母はキリリとよく働かし
井川英子(大阪府)
- 276 骨壺を共に訪ねし墓の祖母は全き土になりをり
音喜多千津子(埼玉県)
- 277 切干しのおいほのかなふるさとの荷物のひもを切らずほどけり
藤原昭三(滋賀県)
- 278 ケアハウスのめぐりに梅のふくらみを入居せし母の二回目春
冷水發子(千葉県)
- 279 この柱子供のキズは薄くなり孫の背丈をその上を書く
北澤実夫(東京都)
- 280 雪の日と晴れとなる日の行き来して早立春もおに過ぎたり
田中豊恵(新潟県)
- 281 春待たず旅立つ君にたむけたき梅のひとつ枝いまほころびぬ
岩崎令子(大阪府)
- 282 忘却は辞書にも哀し復興の進むに遅き三年を積む
寒川靖子(香川県)
- 283 山桜ひとりでいると匂いけりはらはらと人の生き死も
暉峻康瑞(鹿児島県)
- 284 祝日は謂れのあらばその日こそ挙げて祝ふ意義のあれかし
石尾曠師朗(東京都)
- 285 燧岳沼水芭蕉はらびてカメラに収めし若き日の兄
白石政江(群馬県)
- 286 天麩羅か味噌が良きかなふきのたうきみに届ける先取りの春
尾崎友子(千葉県)
- 287 歳重ね老いには老いの意地もあり疎まれようが我が道を行く
野木宗信(奈良県)

288 もうとするかまだと思うかこの齢を
高速(向う赤いヘルメット)

寺田明子(東京都)

289 連れ去った夕日静かにあの辺り正月

また指折る母の 村岡盛英(群馬県)

290 滑降のジャンプ成功次に山峠越えき

て銀に輝やく 土屋喜雄(山梨県)

291 孫たちの揚げるカイトはようやくよくに

微風とらえて青空に浮く

桑原謙一(群馬県)

292 犠牲者の御霊の化身か被災地の梅の

梢にうぐひすの鳴く

山田楽山(埼玉県)

293 作品に朱を入れにつなほ迷ふわれ

にその資のありやなしやと

萬濃その子(神奈川県)

294 対向車が全く来ない浅茅湾釜山が見

えるみな防人か 久保和友(滋賀県)

295 命がけ命生み出す母の力心に刻み今

を生き抜く 峯田まり子(奈良県)

296 覇気失せば暮しの墮落ムチを打て馬

蹄のリズムに眼釘づけ

西山悌三郎(高知県)

297 早春の環濠集落到紅白のリボンかか

りし婚の荷が着く

今井温子(奈良県)

298 溜池の堤にまるく寝まる影帰雁うな

がす風の立ちある

佐伯はる(奈良県)

299 散歩道鯉や鷺との語らいに梅もささ

やく春はもうすぐ

西井喜江(大阪府)

300 おしめない春の陽浴びて喜びぬ散歩

の足の軽くはずんで

高橋登志子(新潟県)

【2月号お詫び】

162 春ちかし池面の波に小雪舞う

長谷部喜代子様 誤地↓正池

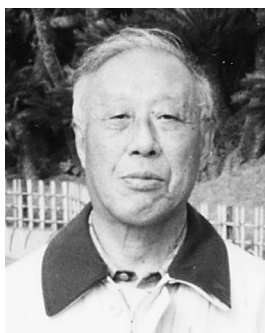
2月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返答をお寄せ頂きありがとうございました。その中で特に多くの評価を集めた作品とそれを選んだ理由の一部をご紹介します。各部門の大賞受賞者から「自句自解」をいただきます。

◎俳句部門大賞

69 諍ひのできる妻居て雑煮餅

村山徳英(埼玉県)



村山徳英様

・生まれ変わってまた一緒になろうネ。口ケンカは愛の証 植松興悦(山形県)・ 妻が居て毎日何かにつけて口喧嘩するが、居ないと困る大事にして、餅が食べたいし 大橋恒次(新潟県)・ 喧嘩が出来る幸、争いがあつても仲が良く妻のいる有難さ！ 浦橋渴雪(兵庫県)・ 傍から見るとオシドリ夫婦です。百才まで頑張れ！とエールを送ります 山崎吉晴(群馬県)・ 諍いも出来る和やかな新年の家庭生活が伺えます 石戸幸子(埼玉県)・ 何と睦まじい夫婦であることよ 古谷力(東京都)・ 共に長生き出来る相手のいることは幸せなことです 金子範子(高知県)・ 老境の幸せを言い得て 妙 長野光康(神奈川県)・ 幸せのご夫婦 内河邦久(東京都)・ 晩年の身にな

ると何をしても「相手」が大切なのです

寺内信(埼玉県)・ 会話なく何をす

ることもなく私も老夫婦一日なにもせ

ず 中嶋清子(佐賀県)・ 妻との諍いは

仲が良いからでしょう。年を取ると頼る

のは夫であり、妻だと思う。雑煮餅が良

い 古川正栄(千葉県)・ 諍いという言

葉を使っているがむしろほのほのとした

幸福感がにじみ出ている 高橋まさ子

(宮城県)

【自句自解】

三人の子供達は結婚独立、築五十年余の茅屋に老々ふたりだけの平穏な生活です。退職後、冷や水で始めた短歌・俳句・書をそれぞれのグループの地域の仲間たちと今でも下手の横好きで楽しんでます。

傘寿を過ぎて忘れごと多く、妻に叱られてばかりの日常ですが、たまには反撃しないとストレスがたまってしまいます。残り少ない歳月前向きに生きるしかないと思ひ定めています。今回の受賞は幸運としか言いようがありません。

◎短歌部門大賞

223 その日から犬ではないという運命盲
導犬は人になり生く

寒川靖子(香川県)



寒川靖子様

・犬も人間もお日様の下では同じです 早坂絃司(北海道)・ 盲導犬は将に人

間より賢くご主人様に忠実だと常々感じてます 阿部澄江(宮城県)・ 健気な盲導犬の姿が目には浮びます 栗原黎(群馬県)・ 盲導犬は犬の世界を超越しているものを感じさせてくれるから 北村純一(神奈川県)

【自句自解】

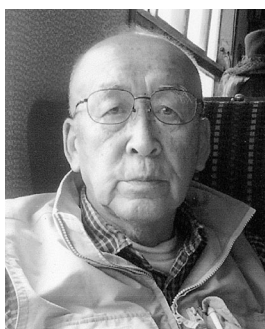
心に残った作品に選ばれましたこと、ありがたくうれしく感謝申し上げます。

映像や写真で見ていた盲導犬をこの眼で見ました時、胸が締めつけられるのを覚えました。眼の不自由な人に寄り添う厳しくもやさしい姿と、何事にも動じない視線を感じました。自分に与えられた運命を受け入れ立場を認識しながら使命を重んじて生涯を献身につくすのではないのでしょうか。犬とは呼びたくない尊い思いを一首にしました。

◎川柳部門大賞

288 口車乗るも乗せるも欲の皮

森恒雄(愛知県)



森恒雄様

・詐欺の、あわよくば金を取ろうと話上手に話すのを聞きそんなにお金儲けができるのなら一口乗ろうと、儲かることばかり考えているのも欲に心が動いてのこと、上手に表現していると思う 大岩歌子(岡山県)・ 笑ってすませられる口車なら、乗って愛敬、でも悪質詐欺はご用心 奥那於子(大阪府)・ 欲がある

からうまい話に乗っかってしまう 中嶋秀次郎(埼玉県)・うまい話に裏がある。二倍になる…だまされてはいけません 鏡たか子(山形県)

【自句自解】

まだ川柳について趣味の域を脱しておりません。始めて十年と日は浅いです。五七五をうまく組合せばよいと手ほどきを受けました。

今回採用されたものは、戦争反対と現代の政党政治を如実に表わしたものです。原因不明のまま原発の再稼動については政治家の私利私欲につながっており、政治不信について詠みました。(八十三翁の寝言)

《俳句》

149 笠智衆のやうに老いたし菊日和

岩村昇(神奈川県)

・「男はつらいよ」の住職役を思い出しました。温顔で包容力がありましたね。

「菊日和」が効いています 浅野信廣(宮城県)・笠智衆の千金の笑顔 炭崎博(滋賀県)・笠智衆への思いの深さに引かれた作者の顔が見えてきた 小山たけし(埼玉県)・若い時から笠さんの映画が好きでした 菊池シユン(青森県)・笠智衆のように老いたしと断言した点に注目した 吉田未灰(群馬県)・加齢となりせつかちとなる。彼のようにひょうひょうと生きてゆきたい 藤井春三(埼玉県)・穏やかな人生、目標です 中野豊彦(東京都)・笠智衆の実に温和で味のある人間性への憧れと菊日和の取り合わせが見事 邑橋節夫(兵庫県)・「笠智衆」という名優と菊日和の調和がいい 羽根田明(神奈川県)

133 赤き実のひとつひとつに雪帽子

山本直子(大阪府)

・情景が鮮明に目につくかびます 水落重武(新潟県)・とてもメルヘンチック、赤き実と言つて重季を上手にかわしています 高崎登喜子(東京都)・今冬は二度目の大雪実感です。風景がいいですね 佐瀬千恵(神奈川県)・色と情景が浮かび、作者のやさしいお人柄が感じられます 冷水發子(千葉県)・可愛いメルヘンが作れそうです 増本和子(大阪府)・色彩が目につくよ句と思えます 近藤薫也(千葉県)・童話のような表現がいいですね 須田洋子(埼玉県)

26 良寛と一茶ならんで日向ぼこ

阿部至(埼玉県)

・お二人の会話を聞きたい 久本に地(岡山県)・同年代のほのほの俳句(臨場観しかり) 渡邊碧海(静岡県)・吟行中の仲間を詠んでいてほえましい!! 安部世衣子(埼玉県)・日本むかしばなしの景が浮かびます。歌人良寛と俳人一茶のほのぼのとした後ろ姿が見える様わらし(子供)の声が聞えてくるようです 稲垣恵子(埼玉県)・よく似たおとしよりが仲良く並んで楽しそうにお話をしていのでしよう 有本正嗣(京都府)・私もそこに並んでひなたぼこできたらいいなあ 高田一葉(新潟県)・良寛と一茶を並べた日向ぼこ。上手いなあ。心癒される 鈴木岑夫 (千葉県)

34 この小屋に鯉を眠らせ雪五尺

小林七重(新潟県)

・雪国の激しい暮しに鯉の命が見える 星井千恵子(埼玉県)・50年振りの大雪当地にも降りました。雪国の大変さを

身をもつて体験。この句は雪国の日常をさらりと鯉を配して捉えている 小野寺裕子(宮城県)・雪国の生活が伝わってきました 鈴木義雄(福島県)・小千谷・山古志?雪深い里の静けさが伝わります 若月理依子(新潟県)・降り積もった雪の下、冷たい水の底で静かに眠り春を待つ鯉、作者のまなざしが暖かい 桑原謙一(群馬県)・深い雪の中で観賞用の錦鯉を飼育されているのでしょうか。早く春が来るといいですね 成田節子(山形県)・この寒い冬に鯉もじつと耐えている。静かに春を待っている 佐藤秀子(新潟県)

《短歌》

215 ひねもすを歩きつ戻りつせし母の辿りし道をわれ病みて踏む

野澤松生(埼玉県)

・母の姿が浮かび切らない 竹村穩夫(大阪府)・元気だった頃からの母の生涯を病床で回想している 田中豊恵(新潟県)・作者の、思いの深さに感動。表現も秀逸 萬濃その子(神奈川県)・逆境にあつて、初めて人の苦勞が想いが分かる様子が良く描かれている 山岸伊久雄(東京都)

237 この年令に來て夢を持つ昨日今日誰を待つでもなし郵便受け覗いてる

林玉子(長野県)

・世間との繋がりがも徐々に減り、届くはダイレクトメールばかり。でも、思わぬ便りが届きました 音喜多千津子(埼玉県)・そうです。年を重ねても夢を持つてあくまで前向きで明るく楽しく一句提供。余生にも夢があります恋の春 野木宗信(奈良県)

《川柳》

283 プロならば隠し通せた五千万

濱田イサオ(福岡県)

・政治のアマチュアだったもんね。お気の毒 石神紅雀(鹿児島県)・猪瀬都知事が徳洲会よりもらった五千万円で辞職に迫られました。小沢のようなプロでは二十四億円でも議員を続けている 青木日出男(群馬県)・成程 山崎一嘉(愛媛県)

292 便座から始まる今日のスケジュール

藤井北灯(福岡県)

・今朝も快便、トイレでゆっくり今日のだんどりを考えられるのでしょうか。ついでに川柳も 小山恵美子(大阪府)・先ず五臓様に感謝します 原崇雄(埼玉県)・あーら、私と同じだわと思えました 寺田明子(東京都)

《他にも》

29 大試験うしろすがたに祈る母

塚田寿子(埼玉県)

80 ゆるゆると生きて行きます着ぶくれ

紺谷睡花(東京都)

107 雪下ろし雪捨て人はみな無口

落合敏子(北海道)

217 茜さす上野の駅に別れたる君のその後をしるすべもなし

梁瀬龍夫(山形県)

221 寒いけどおじいちゃんもがんばって長生きしてねと六人の孫

高須孝(愛知県)

229 千年に一度の地震の「核災」はあと幾年を煩ふ福島

黒澤正行(福島県)

256 親よりも前を歩いて七五三

北村純一(神奈川県)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします!

前回のアンケート

Q.春を感じる匂い
といえど何ですか？
紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できませんことを
お詫び申し上げます。



☆梅

- ・梅の香が一番である。
小野正光(宮城県)
- ・何とんでも「梅の香」
橋本世紀男(東京都)
- ・控え目な梅の香りが好きです。
岡本恵(茨城県)
- ・近くの公園を散策する時いち早く吹きはじめた梅の花の甘い香りにつられて一服。
岩崎令子(大阪府)
- ・梅の甘酢っぱさ。
乾久子(滋賀県)
- ・風が届けてくれる梅の香はやさしい甘さで、一番です。
奥那於子(大阪府)他

☆紅梅

- ・開きかけの紅梅の蕾
芋木匡子(滋賀県)
- ・庭においてある鉢植えの紅梅
杉原明子(静岡県)他

☆白梅

- ・近くの公園にきれいに咲いている白梅の匂いに春を感じました
関原幸子(東京都)
- ・我が家の庭に先立って綻ぶ白梅の匂い。
星井千恵子(埼玉県)他
- ☆蠟梅
・ろうばいの花の匂い
山田幸代(兵庫県)



・今家の前に咲いている「ろうばい」。いい匂いを出してもうすぐ春ですよ……
櫻崎篤子(京都府)

・下野羽黒山の蠟梅の香りです
井上静夫(栃木県)

・我が家の「ろう梅」。季語としては冬ですが「春」を感じる。
片岡啓子(埼玉県)

・香りが先に届き、可愛い花をさがします
秋谷静子(茨城県)

・蠟梅は枝先に冬咲く花ですが、馥郁と甘い香りをあたりにただよわせて春近い匂いを感じます
浅倉里水(千葉県)他

☆露の臺、露味噌、露料理

- ・「露の臺」の香り
植松與悦(山形県)
- ・バツケ(ふきのとう)
大場きよし(宮城県)
- ・散歩のとき摘んできた露のとうを酒の肴に天ぷらにして一杯を楽しむとさ。
林克(福島県)
- ・裏山の雪の下に採りに行く露の臺
湯浅芳郎(岡山県)
- ・雪の下で芽生えて雪消えを待ち侘びている。
田中豊恵(新潟県)
- ・畑から持ち帰ると妻も大喜びです
山岸伊久雄(東京都)
- ・露の臺を摘んだ指先の匂い
飯塚万里代(神奈川県)

・母が最後に作ってくれたふきみその香りが忘れられません
小黒深雪(新潟県)

・春の匂いと言いか、苦い味は春の生命。
須澤重雄(長野県)

・お袋の味は露味噌、閉じたままの露の臺に春の訪れを感じます。
大橋恒次(新潟県)

・熱々のごはんは露味噌をそえて頂くとき。
長野光康(神奈川県)

・酔みそあえは春に一度は食べなければ……
佐藤信(神奈川県)

・凍土の中からふきのとうが芽を出した時、長いながい寒さからの解放感があります。
落合敏子(北海道)

・露味噌と露のとうの天ぷら、春に先がけ今庭隅に真つ盛りです。
尾崎友子(千葉県)他

☆沈丁花

- ・花瓶に活けても良く匂っています。
山本せつ子(鹿児島)
- ・路傍に咲いて香しい
居原田連星(大阪府)
- ・町のどこにもゆたかに香る沈丁花
三ツ木宗一(東京都)
- ・花の姿が見えない沈丁花の香りにいつかは散歩が長くなっている自分があった。
鈴木与平(宮城県)
- ・通りがかりの見知らぬ人もかおりをほめて行きます。
堀木和子(大阪府)
- ・通り過ぎて気付くかおり。春が来た実感します。
大阿久雅子(埼玉県)
- ・咲き始めると夕闇にふわっと香り、道を歩いても目が花を探している。
水川聖子(埼玉県)

・春は始まりの季節だが別れの季節でもある。卒業し沈丁花で、この香りに出逢うと胸がキーンとする。
有島和子(東京都)他

☆桜

- ・日本一早い沖繩の桜も咲いた。やはり春を感じる匂いは桜だと思ふ。
福地義雄(沖縄県)
- ・「桜」香水も桜パンも桜のお菓子、桜茶。だい好きです♡
大橋絵代(千葉県)
- ・桜湯(茶)、桜もち、田んぼを歩いた時の土の匂い
高田一葉(新潟県)他

☆桜餅

- ・和菓子屋さんで並んだ桜餅の桜の葉の匂い。
高崎登喜子(東京都)
- ・江戸の長命寺のそれが好い。
古谷力(東京都)
- ・桜の季節が終わり葉桜に変わり、雨上がりにその下へ立つと桜餅の香がほのかにするのでした。俳句をするようになって発見。
稲垣恵子(埼玉県)他

☆水仙

- ・水仙を束にして活けて部屋に香しい香りをいっぱいします。
藤井碩子(山口県)
- ・野水仙
松尾らん(東京都)
- ・水仙の人恋しくなる、切ない匂いもいい。
鈴木岑夫(千葉県)



A Q U E S T I O N N A I R E

- ・ニホンスイセンの香り 山口昇(群馬県)
- ・早春で感じが一番合っている様な気がします。 後藤すえひろ(福岡県)
- ・「水仙の芽」を見つけ顔を近づけた時の感じ。 鈴木章(新潟県)他

☆土

- ・畑の土の匂い 緑川禎男(埼玉県)
- ・土の泥くさい匂い 高杉杜詩花(北海道)
- ・春耕の土の匂い 津布久信雄(東京都)
- ・長かった雪にうもれ、解け始めの土の匂い。雪国ならでは 藤井春三(埼玉県)

- ・気温が上がると土の匂いに変化して、春を感じます。 峯田まり子(奈良県)
- ・雪を割って出た土の匂いが春一番です。 菅井文男(新潟県)
- ・畑の土の匂い。 菅井文男(新潟県)

- ・大自然はもとより、自分のいのちも甦る想い。 邑橋節夫(兵庫県)他

☆菜の花

- ・菜花のおひたし等で感じます。 安部世衣子(埼玉県)
- ・春風に乗ってくる菜の花の香り。 小林七重(新潟県)
- ・色と味はふるさとのなつかしい匂いが致します。 神野弘(岡山県)
- ・菜の花をお浸しにする、ゆでる香り。 山川幸子(東京都)
- ・房総、菜の花畑。みてよし、たべてよし、かおり一受賞。 北野耕兵(千葉県)他



☆草

- ・とけない春の雪に草の芽 久保和友(滋賀県)
- ・山野草 中高純子(新潟県)
- ・道端の草が芽生いたばかりのみずみずしい香りがすると、春だなあと感じています。 石塚幸子(新潟県)
- ・何と表現すればいいのか。子供の頃土手に座った匂い。 木下精(大阪府)
- ・庭の草花、雑木林を歩いた時の芽ぶき、樹々を通して渡る風など。 井田由利子(宮城県)他

☆よもぎ

- ・搗きたての蓬餅の香り 松田重信(埼玉県)
- ・よもぎ餅。幼い頃祖母と蓬を摘んで、搗いてよもぎ餅を作った。 久本にい地(岡山県)
- ・よもぎを摘んだ手の匂い。 野中よしみ(神奈川県)
- ・春は蓬餅をよく作りました。ヨモギ摘みは子供たち。匂いは今も忘れません。 中野豊彦(東京都)他

☆フリージア

- ・黄色いフリージアの花の香 井川英子(大阪府)
- ・花の香り、フリージアの匂い 星一子(神奈川県)
- ・庭先のフリージアの花 田中迪子(東京都)他

☆海

- ・海の潮の匂い 津田吾燈人(高知県)
- ・海の匂い 暉峻康瑞(鹿児島県)
- ・磯遊び、春の汐の香、手に掬い嗅ぐ喜び。 上村元義(神奈川県)他

☆おひさま

- ・日向ぼっこしながら春を感じる匂いがあります。 安達吟子(新潟県)



- ・太陽の匂。春になりましたね。 早矢仕邦夫(愛知県)
- ・太陽の優しい香り 山本理香(大阪府)他

☆風

- ・ウォーキングに出ると風が野山の香りがする。 木村貞恵(静岡県)
- ・うぐいすが飛んで来る時に風の匂いがついて来るようです。 関根千恵(埼玉県)
- ・ほほにかかる匂いがあるとなくあたたかく春の匂いがある。 吉田律子(新潟県)
- ・風には匂いはありませんが色々なところを通ってきた風は匂いを運んで来るような気がします。 小林春雪(新潟県)他

☆春の雪

- ・春の雪が今年は二回も降りました。雪にも匂いがあるんですね。 鈴木智子(千葉県)
- ・水をふくんだボタン雪にもう春やなアと思いました。 佐伯セツ子(香川県)
- ・東京都心10センチの積雪の朝 矢野絹枝(東京都)他

☆お雛様

- ・老舗に古雛・手作雛がござられ始めたこと。 杉村美保子(岩手県)
- ・おひな様を出す時の樟脳の香り。この頃は上のお二人だけ出しています。おひな様も核家族に…。 若月理依子(新潟県)他

☆水

- ・水量の増えた水の勢い 黒岩正子(埼玉県)
- ・流水が春の訪れを告げてくる。 守屋高雄(岩手県)他

☆山

- ・残雪を踏まえて芽吹く山の動きです。 重原昇(新潟県)他

☆福寿草

- ・固い土の中から「ふくじゅ草」の芽がでてきた。春はそこですね。 石原岳(群馬県)
- ・福寿草の花の匂いです。 菊池シン(青森県)他

☆独活

- ・独活の香りです。 中澤寿美(神奈川県)
- ・独活、大好物です。 竹村穂夫(大阪府)他

☆その他の花

- ・花ならスイートピー、また苺の甘い匂い。季節では夏だがー。 池田岬(埼玉県)
- ・ホームセンターにスイセン、チューリップ等の芽出しポットが並び始める時 佐藤秀子(新潟県)
- ・じんちようげ、ラッパズイセン、ヒヤシンスなど花の匂い 増田公代(東京都)
- ・馬酔木の花 宮崎敏昭(埼玉県)
- ・辛夷の花 浅野信廣(宮城県)
- ・庭に植えたマンサクの香り。他に先駆けて咲き、まだ春の色に乏しい庭中が得も言われぬ独特の芳香で満たされます。 浜田はるみ(埼玉県)他



☆その他

- ・白線引きのペンキの匂い
星野三興(新潟県)
- ・春の色の匂い
椋本望生(大阪府)
- ・岩海苔でしようね。
小島岳青(新潟県)
- ・首を回すとポキポキ音がして、吐く
深い息の匂いが湧く。
松尾健二(千葉県)
- ・砂糖作りの甘い香り。
仲里達也(沖縄県)
- ・春樵を伐る木のかおり(雑木を炭や薪に伐採する木の臭い)
土谷敏雄(秋田県)
- ・庭より陽炎のあがり乾く匂い。
黒澤正行(福島県)
- ・筍や露のとう
佐伯はる(奈良県)
- ・野に芽を出した土筆ですね。
大江秋月(兵庫県)
- ・木瓜の蕾が小さくふくらみかけますが、「あゝ春だ」とその時自然のありがたさに感謝。
西口東治(大阪府)
- ・亀の鳴きははじめた池の匂い。
炭崎博(滋賀県)
- ・夜の公園。
増本和子(大阪府)
- ・若菜を摘む時
有坂馨園(福島県)
- ・木の芽時のあの匂い
安木沢修風(新潟県)
- ・矢切りの渡し「ろ」の音かな。江戸川の水にぎつとこがれると冬と違う香りがするものですよ。美しい川風とのハーモニーです。
増島淳隆(東京都)



- ・こうこうと照らす澄みきった十五夜のお月さん
阿部幸子(宮城県)
- ・せ、らぎの音と花の匂い
森恒雄(愛知県)
- ・春一番の風が吹く頃の空気の匂い。
近藤信一(福島県)
- ・隣人が炊かれる「いかな」の釘煮の匂い。
中山日出子(大阪府)
- ・寒明けの晴れた日の午後
三宅得三(新潟県)
- ・小川の釣人が並びはじめると春を感じる
笠原千恵子(新潟県)
- ・ピカピカの一年生及び沈丁花
福岡悟(東京都)
- ・スニーカーの匂い。
長居美弥子(北海道)
- ・ふきのとう、菜の花、一年生のランドセルです。
宇田川正雄(埼玉県)
- ・わが庭の様子を見ていると鳥たちがとんで来ます。もう春が来ているのですね。
鈴木蝶次(宮城県)
- ・ロゼワインの香りです。
戸田美佐緒(埼玉県)
- ・布団干し見ているだけの春匂う
工藤昌見(山形県)
- ・節分の豆まきをした豆を拾い、ほりほり噛んだ豆の匂い。もうじき暖かくなると信じる。
内田稔(埼玉県)他

新潟ぶらり

★平出修の故郷 2

新潟が誇るべき偉人・平出修。修が生まれたのは新潟市東区猿ヶ馬場。「新潟駅の東、直線五キロ、信濃川と阿賀野川の両大河の下流にはさまれた低地の田圃の中にある細長い丘の上の小部落」*1である。

生誕の地碑があるというので、雪に降られながら出かけた。住宅街の一角に碑があった。刻まれた文字は詳細に修の経歴と業績を追っている。一部を抜粋する。

若くして文芸活動に専心、与謝野寛、石川啄木らと交遊、短歌の草進運動に加わり多くの作品を発表した。猿ヶ馬場を舞台にした小説「夜鳥」は貧しい農民を描いた心暖まる作品である。(中略)その思想は一貫してヒューマニズムの立場から、暖かい人間像を追求してやまない情熱の人であった。一九一四年三月十七日、三十七歳の若さで短い生涯を閉じた。

「夜鳥」は、修が故郷を描いたたったひとつの小説である。しかも、死を意識しながら書いたと言われる。志村士郎氏は、肉体的・精神的に危機を感じていたところであることが出てきたことに注目し、「死のほとんど直前において、どうしても言いたかったことを書いたのではなかったか」*2と述べている。



修が冒されていたのは、骨瘍症。脊髄にかなりの痛みを感じる難病であるという。この診断を受けた二か月後に「夜鳥」を書いた。修三十六歳。志村氏は「風土というものは理屈でもなんでもなくて、ただその人の育った土地そのものがその人の人生を制約する、その人の人間性というものを規定するという厳粛な事実、これが風土に外なりません」*2と述べている。

▶新潟市東区猿ヶ馬場2丁目。修の生家跡。中野山小学校出身者が中心となり、地域の人々から募った浄財で建てられた。

*1 平出彬(昭和47年)平出修生誕の地の碑「平出修研究四」

*2 志村士郎(昭和54年)平出修の文学と風土「平出修研究十一」

第34回目の今回は、黒川道彦さまよりバトンを託された水野喜子さま。一人？残されたココちゃんは、人なつっこくて頭の良い女の子に成長。そして、ミス・ココとして国際化の親善大使として活躍している模様です。

●お客様の『リレーエッセイ』

二才になったココ

水野喜子

(東京都・新宿区)



この二月で、ココは満二才になった。

四匹出産した母親の野良猫クーちゃんが、私共に「この子を育てて下さい。お願いします」と言わんばかりに置いていったのか、はたまたココを忘れて三匹だけ連れて移転したのか……我が家の庭の、綻びはじめた白梅の木の根元で、まだ目もあいてない芋虫のようなココがミーミー泣いていたのを主人が見つけて連れてきたのであった。

哺乳ビンと湯タンポで、順調に、元気で頭の良い人なつっこい女の子に育ってくれた。元気を通り越して、タイヘンなお転婆さんであるが、それが又、実にかわいらしい。

お隣の古い大きな家で、一人暮らしをされているママには「ネズミをとつてくれて、ココちゃんサマサマ」と喜ばれている。時々、好物のホタテのお刺身をご馳走になっているらしい。

名前を決める時、一寸おこがましい気もしたが、私の大好きなココ・シヤネルから頂いて「ココ」と名付けた。今では、とても良かったと思っっている。なにせ簡単な呼び方で、皆さんにすぐ覚えられて可愛がられていることが、親としていちばんうれしい。

私の住んでいる神楽坂近辺、砂土原町には沢山の外国人が住んでおられる。特にフランス人が多い。「神楽坂とフランス人」という取り合わせも、仲々粋でおしゃれな感じがして、私はこの町がとても気に入っている。

ある時、ココを見たフランスのイケメン氏から彼女の名前を問われたことがあった。「ココです」と答えると、「オー！ココ・シヤネル？すてきですね」と言われ、さすがフランス人わかっているんだ、と私も大いに気を良くした。以来、イケメン氏はココを見つけると「ココちゃん

ん、ボンジュール」からはじまって、しばらくフランス語でココに話しかけて行かれる。動物的勘とでもいうのだろうか、ココは怖がりもせず、わかったような顔つきで、首をかしげながら聴いているのが妙なおかしい。

「さよならココちゃん、アデュー」と言って手を振って去って行かれると、彼の後姿をいつまでも目で追っている。

近所に住む英国人の子供たちには、英語で話しかけられているが、これ又、英語もわかるのだろうか、逃げもせず、お行儀良く両足を揃えて座り、じつと聴いている。

ココは、どうやら語学の天才のようである。そして、昔から猫は子供が苦手と言われるが、これを見る限り、そんなことはないような気がするのである。

勿論、日本人の方々にも可愛がられて、今や有名猫になってしまった。

夜は、主人のベッドで寝ているが、時々帰ってこないことがある。心配していたが、ある時、外で生活しているココの母親クーちゃんと三兄妹のために、私が用意してやったダンボール箱の毛布にくるまってみんなで抱き合って眠っていることを知り、今は安心して居る。さすが肉親である。

「外国語って面白いよ。みんな親切でいい人たちだよ」とかなんとか、ココが兄妹たちに話しているだろうなアーとあれこれ思いを巡らせているだけで、私はひとりメルヘンの世界に入っていくのである。

最近、外の猫たちも小窓から家の中に入ることをおぼえ、ココの餌を失敬していく。餌はともかく、私は家が汚れることに閉口しているが、しかし……。

「ココはいいけど、君たちはダメよ！」とは、気の毒でとても私には言えない。

猫に遠慮している自分を笑っている。

家が汚れる分だけ、それ以上にもっと楽しいことがあるから仕方ないか、と見逃すことにしている。

今年も、猫がいて楽しい一年になることを祈っている。

『東京歳時記』の俳句募集

東京の四季の風物や河川、建物、橋、塔、街路、広場、駅、墓地、動植物、祭礼、行事、人物、地名などを詠んだ俳句を募集しています。俳句作品は、ハガキにご記入のうえ、下記までお送りください。投句料不要、句数の制限はありません。

応募作品より、優秀作品を『東京歳時記』に収録いたします。本書は、当社で制作・印刷をお手伝いする予定です。

【作品の送り先】

〒162-0838 東京都新宿区細工町 1-5

牛込北町マンション 506

赤鳥会 松嶋光秋 宛 電話 03-3260-8243

早春の酒蔵吟行会が開催されました

3月23日、「朝日山」「久保田」で有名な朝日酒造(株)において「銀化」主宰 中原道夫氏を選者に、酒蔵吟行会が開催されました。早春の自然の中を散策し、酒蔵内を観察。その後は、各人が思い思いの俳句を詠み、懇親会では多くの杯を重ね合いました。

◆吟行会 優秀句

待春の猪口にほのかな紅の跡

栃倉千江子

酒となる水を養ひ山笑ふ

武田 菜美

亀口に産ごゑ春のしぼり酒

高木 文里

水温む酒常温で盗みけり

丘 のぼる

落味噌や手酌の似合う歳となり

吉野 敬子

ポストカード好評発売中!

毎回ご好評いただいている当社のオリジナルポストカード(1組8枚入り500円×各季節)。今回は春バージョンの「ノビル」を同封いたしました。お気に召されましたら、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手を同封のうえ封書にてお申し込みください。**



●食に関するミニエッセイ「滋味しみじみ」の原稿を募集しています。400～500字の原稿をP16下記の宛先に封書かメールにてお送りください。勝手ながら採用の可否については、弊社に一任させていただきます。おいしいお話、大歓迎です!!

浜名湖を詠んだ書き下ろし作品を出版

去る1月、当社より自費出版した静岡県湖西市在、岡本独楽児様の句集『湖底砂漠』が、地元の中日新聞や静岡新聞に大きく取り上げられました。35歳で出した句集『薔薇乞食』から45年ぶりの本書は、浜名湖をテーマに詠んだ420句の書き下ろし作品。衰退する漁業の現状や水産資源の減少等に危機感をつのらせ、80歳を前に、浜名湖周辺を巡り、漁業関係者に話を聞き、時には泊り込みながらまとめた労作です。



プランクトン無くなり湖底砂漠化す
浅瀬育ため湖に入日が溺れゆく
殺虫剤の缶など湖辺賑やかす



湖底と希望をイメージ▲させる美しい装丁

スタッフの一言

Q. 春を感じる匂いといえば何ですか？

木戸 敦子



黄色のフリージアの匂い。あの色と香りは春そのもの。スイピーのように「春の妖精よ」的な感じは見せず、時期になれば自然とそこに人の気持ちをはき立たせる。あらまほし!

古川久美子



春先はアレルギーで鼻づまりのため、しばらく匂いを感じていない。でも、不思議と花粉の匂いは分かる。天敵から身を守ろうという本能でしょうか…

菅 真理子



桜餅。お花見中、桜のあの匂いに「桜餅…」と思ってしまった。そういえば今年はまだ食べていないぞ。新しい教科書の匂いに春を感じた日とはずっと前のこと。

山田 千秋



まだ雪が残っているけれども、天気の良い日もあって、空気の入れかえで窓を開けぼんやりしていると庇からポタリ、ポタリと屋根の雪解け水が落ちていく時の匂い。あー春ももうすぐそこだなあ…と。

木伏美恵



朝、玄関から出たときの匂い。土なのか、草花なのか、風の匂いなのか。はつきりなんの匂いとはわからないけれど、確実に春の匂い。

上村真智子



夕食後の後片づけが終わって、三角コーナーのゴミを捨てて勝手に外に出た時、春の夜の匂いがした。ああ～遊びに行きたいな～とおぼろ月を見上げて佇みしばらくしてそっと家に入る。

金子ゆり子



小さな頃から数年前までは春になると、靄を燃やして燻炭にしていました。その匂いがすると春だなあと感じます。

石山由希子



雪が解けて土が乾くころ、冬の間は冷たくて湿っていた風が、とある春の宵に暖かく乾いた風になります。その匂いです。残業した日の帰宅途中、ふわ～と来て鼻の奥きゅ～ん。

吉田 瞳



枯れ草から立ち昇る土の匂いと、梅の花の香りも混ざった匂いで春を感じます。あとふきのとうの天ぷらを口の中に入れた瞬間広がる春の香りですね。桜餅もかな…



2歳7ヶ月。ぬいぐるみに本を読んでもあげるの好きなの。



燃えるゴミを「投げる」のは火曜日です

樋口智子

前回の「憶え違いの妙味」を楽しく読んだという声が多数寄せられ、その方々が披露する憶え違いに二度笑い。今回は方言。ゴミを「投げる」などというと不法投棄のイメージがありますが、さて……

方言のない土地というのは、おそらく無いでしょうね。私は北海道から生活の基盤を移したことが無いので、なかなか他の土地の言葉に触れることも少ないのですが、ときどき会話しているお相手の語尾やイントネーションにハツとするとときがあつて、そんなときは、その人の辿つてきた景色に俄かに興味が湧きます。

北海道の言葉というと、どんなイメージを持たれるでしょうか。語尾で言えば、「〜だべさ」あたりを思い浮かべる方もいるかもしれません。しかし、札幌あたりでは、年配の方もあまり使っているのを耳にしません。他の語尾の変化だと、「〜しょ」は私も使つてしまいます。「言うしょ」「おいししょ」などのような使い方、標準語を補うとしたら「言う(で)しょ(う)」です。語尾の変化は、ある程度推測がつくので、おそらく他の地域の方が耳にしても、それなりに意味が通るでしょうね。

完全にその土地の言葉なのかなと思うものは、意味を尋ねないとわかりません。例えば北海道には「ばくる」という言葉があります。これは「交換する」の意味です。二十代後半の頃、ある同人誌の校正作業のときに、私が「目を通した原稿をばくつて」と言ったところ、二十歳くらいの人に「わあ、ばくるつて久しぶりに聞きました」と言われて、びっくりしたことがあります。少し年下とはいえ、同じ二十代なのに使わないのか。また、逆の立場の話として、就職して一回り上の世代の人が「がおる」と言つていて「？」でした。「やつれる」「弱る」という意味のようですね。東北以北での方言のよう

ですが、世代によつてはあまり耳にしない言葉もある……それも方言のもつ一側面です。

まったく別の意味で通っている方言というものもあります。北海道で外せないのは「投げる」でしょう。標準語では「放る」「飛ばす」の意味で使いますよね。道民もその意味で使う場合ももちろんありますが、「ごみを投げる」というように、「捨てる」と同様の用法での「投げる」も本当に浸透しています。そつと置くようにごみを「捨てる」場合も「投げる」といいます。もう一つ挙げるとすれば「履く」でしょうか。「靴を履く」と同じように「手袋を履く」と言います。一般的には「手袋をはめる」と言うのでしょうか。

短詩形に方言を詠みこまれていると、ぐつと景色が開ける感じがします。先に挙げたような、意味が通らない言葉は注釈などをつけないとわからないので、実際には使にくい側面もありますけれど、わたしもかつて「いずい」という方言を詠みこんだことがあります。これは「痛い」や「痒い」の要素を含んだような「違和感」を指す言葉なのですが、やはり詞書をつけました。北海道の人には「わかる、わかる」と言われましたが、他県の人には果たして伝わったかどうか。読み手にとっては、ちょっととしたその土地の語尾の変化あたりが読みやすく、また、それで十分伝わるものかもしれません。

んだつべよ、そうだつべよといわき行き高速バスはひだまりの中
三原由起子

編集後記

3月の彼岸回向で、ご住職が「生きて生きて精一杯生きて、またね」と明るく終りたい」という主旨のお話をされた。インディアンには「あなたが生まれたとき、周りの人は笑ってあなたは泣いていたでしょう。だからあなたが死ぬときは、あなたが笑って周りの人が泣くような人生を送りなさい」という教えがあるそうで、2つのことが重なって聞こえた。時を同じくして卒後25年の同窓会があり、今号の俳句作品にあった「卒業や以下同文のなき行く手」が、まさにそこにあった。次は卒後50年とか。姿勢を正して日々を臨め、との啓示と受けとめました。(木戸敦子)

2014. 4. vol.73 (2014年4月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージズ・コーポレーション